令和4年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る第2回習熟度別指導推進教員協議会（数学）

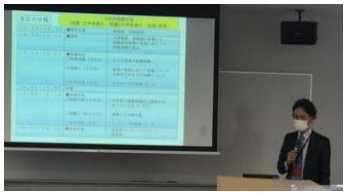
1．目的

令和4年度未来を創る学力向上支援事業に採択された市町村の習熟度別指導推進教員が、授業研究や協議等を通して、個に応じたきめ細かな指導や学力向上に向けた授業改善の取組の充実に資する。

2．主催　大分県教育委員会

3．日時　令和5年2月10日（金）　13：30～16：20

4．場所　大分県教育センター　　中研修室4



5．内容

（1）行政説明　＜義務教育課　指導主事　田口　昭彦＞

■各種調査結果から見る大分県の状況

・記述式問題の正答率が低い。

・問われ方が変わると正答率が低くなる傾向があるため、事実的な知識を概念的なものにする必要がある。

・低学力層（正答率20％未満）の割合が多いことから、習熟度別指導を充実させていく必要がある。

・数学の授業が「好き」「わかる」の肯定値は、経年で見ると少しずつ上昇しているものの、小学校算数の肯定値に比べると減少している。この肯定値の上昇させていくことは、生徒の学力定着を図る上で、大切な要素となるため、県として引き続き「好き」「わかる」の肯定値を注視していく。

（2）授業研究及び協議

■授業視聴（視点）

・本授業で取られていた手立ては有効であったか。

・さらに支援するべき手立てはないか。

■協議1「視聴した授業について」

・授業の最初に既習の学習内容を確認したことがよかった。

・説明のモデルの提示は、説明が苦手な生徒にとって有効であった。

・生徒の思考を促すために、考え方のヒントを2つ例示し、全体で確認していたが、全体ではなく必要に応じて個別に提示でもよかったのではないか。

・説明に必要なキーワードを示し、説明の練習をする時間の確保ができると説明が苦手な生徒の理解は進むのではないか。

（3）グループ協議

■協議2「各自の授業実践から見える課題とその解決策」

・各グループから挙げられた以下の４点について協議

1. 基礎コースの生徒の数学に対する意欲を高める工夫について

　実験的な操作活動を伴う導入の工夫やゲームの要素を取り入れた展開、解けた喜びを大切にする指導等が重要となる。

2. 基礎コースに求められる学力について

　基礎・基本のみを重要視するのではなく、基礎コース・標準コースともに「付けたい力は同じ」であることを前提に、ゴールへのアプローチを工夫することが大切である。

3. 生徒が引き付けられる教材・教具の工夫及び生徒の表現力育成について

　グラフや点が動くような問題では、生徒が視覚的に捉えられるような提示の工夫が大切となる。また、生徒の表現力育成については、数学的用語を確実に押さえパターン等を示すことが重要となる。

4. 学力の定着につながるタブレットの効果的な活用について

　使うことが目的にならないよう、育成を目指す資質・能力を身に付けさせるために使用すること。テスト機能、学習支援ソフトの機能、デジタル教科書等を適宜活用することが大切である。

（4）閉会行事